MARCH文系数学 最短突破

このPDFは、製品版の冒頭5ページを抜粋した
無料の試し読みサンプルです。目次・本文の書き方・
問題の出し方を確認してから、購入をご検討ください。

購入先

・黒田塾 教材プラン（科目別・セット価格、LINEで注文）
https://kurodaschool.jp/materials/
・BOOTHショップ「東大黒田塾」（ダウンロード販売）
https://kurodajuku.booth.pm/
・科目選びの相談（無料）
https://kurodaschool.jp/contact/

※ サンプルは製品版の一部です。収録範囲・分量の全体は
各販売ページでご確認ください。
※ 本サンプルは個人の学習用です。第三者への配布・転載・
転売・共有は禁止します。
※ 購入や読了による合格・得点を保証するものではありません。

MARCH レベル　文系数学

最短突破　8 割到達演習

明治・青山学院・立教・中央・法政

全 12 講・278 題相当（実戦は大問単位）。例題 24、本演習 120、基礎補修 60、整数・統計 20、補充 16、短答 10、実戦 7 回 28 大問。この一冊では、単元別の学習と時間を計る実戦テストを分けた。まず各講の例題 1 と下表の本演習 2 題に取り組む。失点した型だけ基礎補修または追加演習へ戻る。

講	単元	初回の本演習（各講 2 題）	開始頁
1	式・方程式・論証	P01-04・P01-08	7
2	二次関数と解の配置	P02-04・P02-07	16
3	図形の性質と計量	P03-04・P03-08	25
4	場合の数と確率	P04-06・P04-09	34
5	図形と方程式	P05-06・P05-08	43
6	三角関数	P06-06・P06-10	52
7	指数と対数	P07-07・P07-10	61
8	数列と漸化式	P08-04・P08-05	70
9	微分と接線	P09-04・P09-10	79
10	積分と面積	P10-06・P10-08	88
11	平面・空間ベクトル	P11-04・P11-08	97
12	データの分析と融合	P12-04・P12-05	106

Data

目的別に開く

取り組み方　2 頁　　大学・方式別　3 頁　　過年度資料　4 頁

補充演習　115 頁　　短答判定　142 頁　　整数　128 頁　　統計的な推測　135 頁　　実戦テスト　147 頁

黒田塾の原教材 248 題に、本版で補充・短答・実戦の 30 題を加えた。大学の実題は調査資料として参照した。

試し読みサンプル

8 割をどう判定するか

最初の 36 題

12 講それぞれの例題 1 を解いてから、表紙に示した本演習 2 題を解く。最初の式を自分で立て、図・条件・計算・答えを紙に残す。途中で解説を開いた問題には印を付ける。次の表の「戻る先」で解き直し、別の本演習で通用するか確認する。

止まったところ	戻る先	次に書くこと
言葉や公式を思い出せない	同じ講の「基礎補修」R	定義または公式と、それを使える条件。
立式できない・方針が浮かばない	その講の例題 2 と本演習 04〜08	問題文のどの条件を、どの式に変えたか。
符号・重複・範囲で失点	間違えた問題の解説「確認」	消える値、端点、重複、元の条件への代入。
大問の後半だけ進まない	本演習 09〜10、補充演習、テスト 1〜4	前の小問で得た式をもう一度書き、変数を減らす。

テストは初見・制限時間内・100 点満点

第 1〜4 回は練習用。第 5〜7 回の問題と解答は判定日まで開かない。第 1〜6 回は 70 分、第 7 回は 60 分。解答・単元名を隠し、電卓を使わず、別紙に途中式と結論を書く。100 点中 80 点以上を未見の判定用 3 回で続けて取れたら「本書の 8 割基準達成」とする。受験予定の学部・方式については、実際の制限時間で未見の過去問でも再確認する。

各大問は 25 点。標準の部分点は第 1・2 小問が立式 2 点・計算または論証 4 点・結論 2 点、第 3 小問が立式 3 点・計算または論証 4 点・結論 2 点。証明問題の「立式」は使う仮定や示すべき式に当たる。第 7 回では大問ごとの採点基準を使用する。解説を見た後の解き直しは初見点と別欄に書く。

回	時間	問題	解答	初見点／100	再演習・失点した ID
1	70 分	148	162		
2	70 分	150	164		
3	70 分	152	166		
4	70 分	154	168		
5	70 分	156	170		
6	70 分	158	172		
7	60 分	160	174		

試し読みカップル

志望校と方式から学習範囲を決める

同じ大学でも、学部別試験・全学部統一・共通テスト利用で範囲や時間が変わる。下表は独自数学を使う代表例である。大学名を押すと参照資料を開ける。

大学・方式	確認できる範囲・形式	この冊子での取り組み方
明治大　商／2027 全学部統一	選択の「数学②」は数学 B の数列と統計的な推測、数学 C のベクトルを含む。	第 12 講後、S01〜S10 で分布、推定、検定を学ぶ。学部別の情報コミュニケーションは別設定である。
青山学院大　経済学科／2027 個別 B	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C（ベクトル）。独自数学は 90 分・150 点。	90 分の過去問では個々の大問にどれだけ使えたかも記録する。経済 A の公式サンプルには信頼区間がある。
立教大　2026 一般・文系 2 月 9 日	Ⅰ・Ⅱ・A、B（数列）、C（ベクトル）。小問集合の後に、図形から定積分、空間ベクトルから面積最小に進む。	P10-06・P11-08 を解き、実戦では途中の式を残す。M07 は未見で受ける。
中央大　経済学科／2027 学部別選抜Ⅱ一般	Ⅰ・Ⅱ、A（図形の性質、場合の数と確率）、B（数列）、C（ベクトル）。60 分・100 点。	P03-04、P09-05、P10-06 で角の二等分線、接線、面積を復習し、60 分の第 7 回で時間を測る。
法政大　経済／2026 年度以降 T 日程	国語と数学から選択。数学はⅠ・Ⅱ、A（図形の性質、場合の数と確率）、B（数列）、C（ベクトル）。	第 1〜12 講を優先。第 12 講の数学Ⅰ「データの分析」は、数学 B の「統計的な推測」と区別する。

KEY　形式に合わせて採点する

数値マークと選択式は、途中式が合っていても最終選択を誤ればその欄は 0 点として練習する。記述では、正の範囲・端点・場合分けに使った根拠を一行残す。明治の情報コミュニケーション学部は、2025 年度から 4 大問すべてを解答する形式に変えたと説明している。[同学部の出題方針]

試し読みサンプル

1977〜2026 年度の資料をどう使ったか

50 年度を調査対象とした。試験問題を読めた年度、出題意図だけ確認できた年度、図書館の書誌から所在を確認できた年度がある。学部や試験日を特定できない問題は文系の出題件数に含めていない。以下は教材の設計に使った具体例である。

時期	確認した資料	学習への反映
1977	旺文社『全国大学入試問題正解』昭和 52 年度数学の書誌・所蔵。	5 校の文系全問題の本文は未確認。書誌から出題テーマや頻度を推定しなかった。
1980・1985	佐々木隆生「私立大学一般入試形態の戦後史」で中央経済の科目指定を確認。	1980 年の数Ⅰ・数Ⅱ B と、1985 年の数Ⅰ・代数／幾何は旧課程。現在の出題範囲は前頁の方式別資料で判断する。
1989・1990	明治 1989 の整式の余り、法政 1990 の平均の不等式の問題本文。出題学部は未確定。	P01-05 と X12 で、割り算をせずに余りを決める条件を扱う。P01-07 では不等式の証明と等号成立条件を練習する。
1995・2000	1995 年の法政は法・経済で軌跡と硬貨の確率を確認した。法政 2000 法（A）には三角形の二辺と面積から残る辺を決める問題、円の外部の点から接線を引く問題がある。	P03-01・P03-02 で辺と角の対応、P05-06 で軌跡、P05-05 で円外から引く二接線を練習する。V01〜V10 は分野が変わる短答の時間配分を練習する。
1998・2000	立教 1998 経済学科の群数列・二次関数と面積・円と直線、立教 2000 経済学科の空間座標と経路の数え上げを問題冊子で確認。	X09 で群の途中までの和、P11-06 で空間ベクトル、X15 で許された範囲の格子経路を数える。
2010 年代	中央 2015 の商・経済の学部別索引で数列・微積・指数対数および確率・二次関数の分類を確認。	第 2・4・7・8・10 講を個別に学び、単元名を伏せた実戦テストで改めて選ぶ。
2025・2026	中央経済Ⅰ、立教文系、青学全学部などの公式出題意図。	接線から面積、ベクトルから最小値など、前の小問を次の分野に持ち込む過程をテストに入れた。

数強塾の年別公開索引には理系や学部名を確定できない冊子も含まれる。1995〜2025 年の 155 枠（31 年 ×5 校）を点検し、153 枠に掲載を確認した。当該索引で見つからないのは法政 2004・2005 年度である。掲載数は文系の全問を精査した年数とは異なる。年度・大学ごとの照合状況は付属の調査表に記録した。

過去問ジャーナル

入試で問われた判断を、どこで練習するか

学部・日程を特定できた事例を、最初の問いと、その先で必要になる判断に分けた。どれも公表資料から確認した例であり、表の並びは出題頻度順を意味しない。

資料（押して開く）	入試で問う判断	本書で戻る問題
中央・経済Ⅰ 2026	接線を立て、曲線とのもう一つの交点を決めてから面積を積分する。	P09-05、P09-06、P10-06
立教・文系 2026 年 2 月 9 日	空間ベクトルの内積で三角形の面積を式にし、二次関数として最小化する。	P11-08、P02-01、判定用第 7 回
立教・文系 2026 年 2 月 6 日	定積分と恒等式に含まれる係数を読み取り、漸化式へ移る。	P10-08、P08-05、判定用第 7 回
青学・全学部 2026	計量を微分に、座標で求めた境界を積分に接続する。	P03-09、P12-10、P10-06
青学・経済 A 2027 向け公式例	相関の判断と、必要な推定精度から標本の大きさを決める手順を確認できる。	E12-02、P12-04、S07・S10
法政・T 日程 2025 数学①	集合の条件と倍数の和、空間ベクトル、法線と三角関数・面積を扱う。	P01-06、P08-02、P11-06、P06-02

KEY　同じ公式を使う問題でも、どこから始めるかが違う

　たとえば「接線の傾き」があれば導関数をその値に等しく置く。「ある点を通る接線」では、その点を接点にできるとは限らない。接点を文字で置き、接線の式に与えられた点を代入する。P09-05 と P09-10 を続けて解くと、この違いを確認できる。

試し読みサンプル